



笑 顔 の 方

必らずしも美人でなく、必らずしも貴夫人ならなくも、唯笑顔もて女は暗黒なる家内に光明を充たす詩人も歌つて居るが、善悪ともに婦人の笑顔には強大なる勢力がある、婦人の笑顔は世界を治め導くに必要なる勢力を女人に授けられ居ることの證據で、男子は概して隠然婦人に感化さるゝを免れぬものであるから、笑顔もて男子を喜ばせ、而して徐ろに之を善に導くは女の天職と申して宜

しい。男子は一家の長として家族の和樂を邪魔する力はあるが之を作り出す事は出来ぬ。一家の和樂を産み出すは婦人の仕事、婦人の特權である。世の中を美しくするも、家庭や身の回りを清くするも、萬事に趣味風韻を添ふるも、皆女性の大本務である。

『世に愛嬌ほど大切なる働きはなし、谷間の森も歌ふ鳥なくては物足らぬ。愛嬌に富める女一家の中に居らば隅々まで明煌々たる心地がする此婦人が追つき来らば和氣暖風を迎ふる様で、かゝる女性と共に居らば得も云はぬ幸福を感じる、人は皆重き鎖を後に曳きつゝ、此世を渡るに、神々しき婦人の笑顔は不思議にも其鐵鎖を輕くする』といふ様なことをヴェクトル、ユーゴーが申して居るが誰も之に異存はありますまい、よし徳ありとも不

作法では人の心を和らげがたい。『母さま、よい人でも愛想のない人たちは天國の何處へやられるでせう』と問ふた小兒の一言深く味ふべしである。

(泰西女訓中の一節別項讀書の榮の紹介を御覽なれり)

麻疹のこと

うちつゞく梅雨で、そこいら一面、家の中は見るとものも見るものも、かびだらけ、いや、物ばかりではありませぬ、ほんとに心までが、くしゃくしゃしてかびが生えた様な心地、こんな時には、いろいろの病菌が得たりかして、播殖するものですから、恐ろしい傳染病などが、どしどし蔓延つて來ます。ですから、この時期は、よくよく氣を付けて殊にそこいらを清潔にしなければいけません。

生水は飲まぬ様、食過ぎはせぬ様、寝冷もせぬ様に腹巻をして寝ることなどは、これから夏に向つて殊に氣を付けねばなりません。少しは臭がするけれども捨てるも勿體ないから食べて仕舞ふなどは以ての外の不經濟、不養生、少しでも悪むと思つたら遠慮なくどしどし捨てるのが一番に賢い仕方でありませう。

近來は、兎角異論な病氣がはやる様ですが、子供の間に行流して居るのは、相變らず麻疹です。これは、よく注意の届く家庭や、丈夫な子供に取つては別段恐ろしい病氣でない様ですが、少と弱い子供や、不注意の家庭に這入ると、中々恐るべき結果を生じます。この病氣は大低二才から六才位までの子供を侵すのですが、寧此時分の方が軽くつて、大きくなると反つて重いと申します。傳